

産業基盤づくり、教育と人づくり、健康・環境・福祉政策を柱に

平成元年度予算決まる

総額 42億1,094万円 一般会計 27億7,400万円

工事の進む光工業団地

平成元年度の予算が、三月に開かれた町議会定例会で可決されました。斉藤町長は議会冒頭、産業基盤づくり、教育と人づくり、健康・環境・福祉政策を三つの柱とした本年度の施政方針を述べました。ここでその予算の概要をお知らせします。



町長 斉藤 譲

◎ 一般会計予算 ◎

平成元年度の光町の予算総額は、二七億七、四〇〇万円です。この予算に基づいて町は事業を展開することになります。

今年度は、第八次三カ年実施計画の最終年度にあたることから、計画の完全達成を目標とし、ふるさと創生資金八千万円も十分活用する予算を編成しました。

昭和六十三年年度の町財政は、篠本開発をはじめ、積極的な財政投資を行ってきましたが、地方交付税や町税等が順調に伸びているため、引き続き

健全性を維持してきました。

その結果、六十三年度は六十二年と同様に、二億円を超過す繰越金が確保できると見込まれます。

ところで、今、地域開発の波はわが東総地域にも急速に押し寄せようとしています。

今こそ、この状況を深く認識し、特色と調和のとれた秩序ある町づくりのため、しっかりとした基盤をつくることこそが最も重要な課題です。そこで、平成元年度の光町予算は、かねてから進めている篠本開発、基幹道路整備等の、

いわゆる社会資本の充実をめざす**産業基盤づくり政策**と、

国際化をはじめ多様化する社会の中で、未来を切り開く英知と決断・行動力を持つ人材を養成する**教育と人づくり政策**、さらに、町民の健康増進と生きがいを与える**健康・環境・福祉政策**の三点に重点を置き、積極的に各種事業を展開します。

歳出

産業の基盤づくり政策

篠本開発

まず、篠本開発ですが、光スポーツ公園の造成工事に三億五、八六一万円、光工業団地造成工事に四、四九三万円を予算措置しました。(総務費) 光工業団地は、今年度で造成工事が完了しますので、今後は将来、町発展に有益な影響力をもてる優良な企業の誘致に全力を傾けていきます。

道路整備

道路整備については、三億二、〇三六万円を投入し、地区から要望の強い足元道路整備

や、小田部から台へ向かう道路の改良工事、光スクールライン(通学道路)の自転車歩行者道整備を中心に事業を行います。(土木費)

農業振興

各ライスセンターの機械更新補助金や転作奨励金などの水田農業確立対策事業経費を中心として、五、八六二万円を投じ、農業の振興を促進します。(農林水産業費)

教育と人づくり政策

後に新規事業として紹介する小・中学校パーソナルコンピュータ導入事業、青少年海外研修事業、外国人講師の招致や、各学校整備工事を中心として四、五一六万円を予算措置しました。(教育費) 人づくりは、単に施設や設備だけでは決してできるものではなく、しっかりとした精神を養う教育に裏打ちされてこそ、成果を挙げることができると確信しています。今後は、ここに広く英知を集めていかなければならないと思っています。